

# 東南アジア研究センター

## 1967年度第3・四半期報告

1967年10月から12月にいたる1967年度第3・四半期の、東南アジア研究センターの活動状況を要約報告する。

**現地調査研究**としては、前期にひきつづき福井捷朗助手（東南ア研）がバンコク連絡事務所の所長代理として勤務するとともに、水稻の植物栄養学研究をつづけている。文部省海外学術調査研究として、タイ・マレーシア生物相の調査を行なった小山博滋技官（国立科学博物館）、田川基二助教授（理）、清水建美助教授（信州大・教養）、北川尚史助教授（奈良教育大）、岩槻邦男助手（理）、福岡誠行調査補助員（理）は約4カ月にわたる調査を終了し無事帰国した。また、インドネシア地すべりの予備調査を行なうため、山口真一教授（防災研）が10月にインドネシアを短期間訪問した。

**養成計画**としては、11月に海外留学生選考試験が行なわれた結果、堀内孝次（京大大学院農学研究科）、山田勇（京大大学院農学研究科）、土屋健治（東大大学院社会学研究科）、加藤剛（一橋大大学院社会学研究科）の4名が合格した。

**交換計画**としては、インディアナ大学の L. L. Merritt 副総長など海外から多数の訪問者を迎えた。本岡武教授は11月、フランスにおける東南アジア研究の現状視察のためパリに赴き、また石井米雄教授は、アメリカおよびヨーロッパ諸国の東南アジア研究機関および研究者を訪問のため、11月上旬アメリカへ向け出発した。

**出版計画**では、Reports on research in Southeast Asia, social science series No. 2 の刊行準備がすすめられている。

なお、人事異動として、12月に高谷好一助手（東南ア研）が助教授に昇任、笠原禮子事務補佐員（東南ア研）と瀬戸口烈司大学院学生（理）とが助手に採用された。

東南アジア研究センターはあと3カ月で第1期5カ年計画を終えることとなる。第1期計画の仕上げと、これにつづく第2期計画の準備に十全をつくしたいと思う。

1967年12月

京都大学東南アジア研究センター所長

岩 村 忍